

第3回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

平成 26年 2月 7日 (金)

時間 午後 2 時から

場所 弥富市 図書館視聴覚室

(弥富市役所隣 2 階)

○議 事

1. 開会

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ今から、平成25年度 第3回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。 ・私は、本日の議事進行役を務めさせていただき、公益財団法人豊田都市交通研究所の山崎である。 ・本日は寒い中、お集まりいただき感謝する。年度末になり、今回と、もう一回年度内に予定されている。皆さんにご議論いただきたい案件があるので、よろしく願います。
------	---

2. 弥富市長挨拶

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に、本協議会の会長である服部弥富市長よりご挨拶をいただく。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・大変お忙しい中、また寒い中を地域公共交通活性化協議会にご出席いただき感謝する。平素は交通行政のみならず、皆様方から大変なご協力とご尽力をいただいている事をこの場を借りて、厚くお礼を申し上げる。 ・このところ、寒い天気が続いている。気温が上がらない中で、特に朝晩きびしい。皆さんもご承知かと思うが、この地方に春を呼ぶ行事としては、国府宮のはだか祭があるが、来週の2月12日(水)に開催される。こういった行事が終わって、段々暖かくなるかと思っている。今しばらくだと思うので、ご自愛いただきたい。 ・昨年10月に東部ルートの乗り継ぎの利便性を高めるためのダイヤの変更、あるいは北部ルートの利用の少ない便の減便のお話をさせていただいた。東部ルートについては、効果の検証をしている。北部ルートについては、減便について利用者が減っていない状況なので、効率的な対応であったかと思う。そのような報告も含めて、お話をさせていただきたい。 ・本日は、利用実態調査やアンケート調査結果のご報告を申し上げ、皆様方に忌憚のないご意見をいただきたいと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より、資料の確認をお願いする。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の確認 (00:03:33~00:04:39) 会議次第 第3回 弥富市地域公共交通活性化協議会 (資料) 配席表 第4回 「弥富市地域公共交通活性化協議会」 (案内)

	きんちゃんバス啓発用ファイル
--	----------------

3. 議題

(1) 地域公共交通の現状分析等について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題に入る。 ・ 本日の議題は、(1) 地域公共交通の現状分析等について、(2) 弥富市地域公共交通総合連携計画についての2点ある。 ・ 現状分析について、毎年いろんな調査をして現状を把握しているので、それについてご報告していただきたい。議題の中に4点挙げているが、最後の「問題点・課題」は、次の連携計画に向けての問題・課題になるので、2つ目の議題の中でさせていただきたい。住民・利用者アンケート調査結果のところまで、事務局より説明をお願いする。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題 (1) 「地域公共交通の現状分析等について」資料を基に説明する。 ○資料説明 (00:05:55~00:35:57) ・ 訂正をお願いしたい。1ページの目次、4. 「第2期弥富市地域公共交通連携計画」を「第2期弥富市地域公共交通総合連携計画」に訂正をお願いしたい。 ・ 目次にある「1. 地域公共交通の現状分析」から「2. 上位・関連計画」「問題点・課題の整理」まで63ページのボリュームとなるが、重要なポイントのみ説明する。 ・ 1ページ目、人口動向については弥富市では増加傾向にあるものの、将来的には減少すると予想されている。また、高齢人口割合も平成25年現在22.2%から、将来は高齢化が進展すると予想されている。 ・ 2ページ目の通勤・通学流動は、弥富市は名古屋市とのつながりが強く、多くが流出している。次いでつながりの強い愛西市や蟹江町、津島市とは逆に弥富市への流入が多くなっていることが伺える。 ・ 3ページ目には主要な公共施設の分布状況、そして4ページ目に主要な道路と鉄道網、5、6ページ目にそれぞれ平成17年、平成22年の自動車交通量を示している。交通量は市域南部で減少しているほかは、特に大きな変化は見られない。 ・ 続いて7ページ目に平成11年に運行を開始した巡回福祉バスを含めたこれまでの運行の経緯を整理している。平成22年の6月に「弥富市コミュニティバス」として実証運行を開始し、平成24年の4月に「きんちゃんバス」として本格運行し、利用実態やニーズ等を踏まえ、運行ルート・ダイヤを変更し、着実に利用者数を増やしてきている。 ・ 8ページ目は現行の概要、9ページに運行ルート図を示している。 ・ 10ページは平成22年度から平成25年度の利用者数(全ルート)の推移を示しており、1日あたり4人、特に平日の利用者数で増加している傾向にある。 ・ 11ページは北部ルートであり、平日・休日ともに増加傾向にある。 ・ 12ページの南部ルートは、平日・休日ともに減少傾向にある。 ・ 13ページの東部ルートは、平日増・休日減という傾向にある。

- ・また、14ページでは、平成22年度以降、運行日数・運行便数が減少しているにもかかわらず、平均乗車人員は南部ルートを除いて増加している傾向にあることが伺える。
- ・15ページからはルート別バス停別の一日平均乗車人員であり、北部では「総合福祉センター」「イオンタウン」、南部では「近鉄弥富駅」「弥富市役所」、東部では「十四山総合福祉センター」が多くなっている。
- ・17ページからはルート別便別の一日平均乗車人員であり、北部は平休日ともに増加傾向にあり、南部では平休日ともに多くの便で減少、東部では午前の便で増加、午後の便で減少といった傾向にある。
- ・23ページからは11/25からの1週間に全てのバス車内で実施した利用者乗降調査の結果となる。24ページに回収率が98.3%とほぼ全員のデータが得られたこと、25ページに75歳以上の割合が多く、南部ルートでは高校生の利用が20%を超えているといった利用者属性を示している。
- ・26ページに利用目的として、全体では「公共施設利用」、北部で「買い物・通院」、南部で「通学・習い事」の割合が比較的高いことが伺える。
- ・27ページは乗り換えの状況として、北部から南部が11人、南部から北部が9人となっており、木曾岬町自主運行バスや飛島公共交通バスとの乗り換えはほとんど見られていない状況である。
- ・28ページには、乗降する停留所のパターンとして、20件以上を赤色、15件以上を紫色で示している。
- ・29ページに月別、年度別の収入状況、30ページに運行経費、収支を示しており、経費減少・収支改善の傾向にある。
- ・31ページからは周知・利用促進策として、75歳以上に配布する無料パスカード、定期券・回数券・シルバーパス（65歳以上）、市内6箇所に設置しているサイクル&バスライド駐車場、全戸に配布している時刻表・バスマップ、34ページに新たな利用者の掘り起こしを目的とした無料お試し乗車券など、様々な取り組みを行っている。
- ・35ページ以降に無料お試し乗車券の配布結果を整理しているが、全809世帯に配布し、利用できる10月の1ヶ月間の利用者数は増加している。
- ・37ページに無料お試し乗車券の利用者年齢層、利用回数、38ページにきんちゃんバスの利用経験、39ページに運転免許保有状況、利用目的を整理している。
- ・40ページからは周辺自治体（飛島公共交通バス・木曾岬町自主運行バス）や鉄道との乗り換えとして、41ページに飛島公共交通バス、42ページに木曾岬町自主運行バス、43ページに近鉄との乗り換えについて整理している。なお、木曾岬町自主運行バス以外は、乗換を考慮したきんちゃんバスのダイヤ改正を行っている。
- ・44ページからは住民アンケート調査について整理している。12月に15歳以上の1,000名と利用者・区長会・福寿会・商工会の団体を対象に実施し、46.7%という高い回収率を得ている。46ページに回答者の属性、47ページに利用の有無、利用頻度、48ページに利用目的などの結果を整理して

	<p>いる。49ページの満足度としては、満足と不満がほぼ同じ割合となっており、不満の理由としては「本数の少なさ」「時間が合わない」が挙げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50ページにある現在きんちゃんバスを利用していない方の今後の利用意向として、「今はまだ利用しない（将来的に利用したい）」とする回答が約65%となっていることが伺える。 ・その他、バス停までの距離、バス停までの主な移動手段、最後に、「今後のきんちゃんバスの運行維持について」の回答結果を整理している。 ・53ページには、弥富市で取組んでいる心身障害者福祉タクシー料金助成事業、54ページに高齢者等福祉タクシー料金助成事業について、その概要と利用状況を整理している。 <p>以上で議題（1）地域公共交通の現状分析等の説明を終える。</p>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度やってきた調査等について、事務局から報告いただいた。 ・何かご意見、ご質問等はあるか。
青木委員 （公募委員）	<ul style="list-style-type: none"> ・53、54ページの心身障害者福祉タクシーと高齢者福祉タクシー事業について、高齢者福祉タクシーは自分で申請するのか。その時に、心身障害者と高齢者のタクシーを重複することはできないのか。どちらを優先するのかお聞きしたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局、いかがか。
事務局 （伊藤）	<ul style="list-style-type: none"> ・参考とさせていただき、詳しい運用のことについては、今、承知していないので、調べてご連絡させていただく。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にいかがか。
福田委員 （民政委員）	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどのアンケート結果の報告について、お試し乗車券の中で、免許証を持っている人の割合が多いが、年齢はどうか。高齢者の方であるか。 ・ある市町で私たちがお伺いしたところ、高齢者になって運転免許証を返納した方に、年間2,000円分の乗車券をいただけるところがある。高齢者の事故も多いことで、返納する方が弥富でも増えてきているので、その点からすると、どれぐらいの割合の年齢の方が教えていただきたい。
事務局 （伊藤）	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に対する属性は分析していないので、現段階ではわからない。 ・免許を返納された方について、様々なサービスをしているのは、高知が最初にやられたかと思っているが、弥富市においては、免許証自体が身分証明書になるので、返納された方については住民登録書を渡す制度がある。チケットや買物割引券を配布しているところもあると聞いているが、そういった制度については取り入れていないのが現状である。
福田委員 （民政委員）	<ul style="list-style-type: none"> ・予定もないのか。
事務局 （伊藤）	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の検討課題かと思う。
福田委員 （民政委員）	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳から75歳の無料パスがもらえるぐらいの方が、たぶん返納されると思うが、75歳になれば自動的にいただけるよね？

事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討課題にさせていただく。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 弥富の場合は、75歳で無料パスがいただける。どうでしょう。免許返納、75歳超えたぐらいからが多くなって来る…。そうではないか。 ・ 75歳未満だと、まだ返す人がいないのかも…。
福田委員 (民政委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 便が不自由な方がある。返納される方が…。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉的な観点からすると、そういった方々の移動手段を考えてあげないといけない。 ・ 検討課題として、事務局で考えていただきたい。 ・ 他によろしいか。
加藤委員 (福寿会)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者対策ということで、1ページの(2)のところ、平成27年には高齢化率が25%を超える。その後も高齢化はスピードが速いと思う。25%で収まるものでなく、相当大きな数字になってくると思う。 ・ 25ページの高齢者の利用状況を見ても、紫色の75歳以上の利用が多い。私たち、地元のことも含めて、今後も会議の中でどういったお願いをしていったらいいのか非常に難しい。結果的に、利用形態を年齢別に見ると老人の利用が非常に高いことと、老人がどんどん増えてくることからすると、同じルールで市民全体の公共交通バスを考えることは、一つのあり方で答えを生み出そうというのは難しいと思う。片方に力を入れるとお金ばかりかかって、効率がなかなか上手くいかないこともあるだろうし、今の私たちも地元で老人が多くなっているのは事実である。 ・ 私の集落でも、老夫婦で海南病院に行くことがなかなか難しいということも言われる。買い物については、子供たちが日曜日に来てくれたり、頼んで来てもらっていることで何とか対応するといった話などいろいろある。 ・ バスの利用を市全体からすると、地形的な問題で狭い道のところには案外、住宅がたくさん建っている。どこの市町でも同じかもしれない。 ・ 今のバスを使って、今のやり方で高齢者も十分満たされる形にするのは、私は限界な気がする。もう少し、高齢者を見据えた形で、これに変わる何らかの対応をしていただくことが、今後いろいろ議論して、分けるということも一つのルールだと思う。高齢者は昼間が多いだろうし、一般の方は時間全体、通勤・通学で使っている方も一部あったようだが、そういったことから全般を変えることはなかなか大変だと思う。 ・ 確かに私も今まで、もっと時間を細かくしないといけないとか、バス停をどんどん増やさないといけないという話があるわけだが、当然それをすれば需要が増えることもわかるが、こういった形でやるということは限界があると思う。 ・ 三重交通も、今までここをローカルバスが走っていたが採算が合わないとか、当時は町も協力していたが、やはりお互いの中でやめて変わった。これは日本全体、特に山村の方に力を入れてやっていたが、

	<p>公共が支援していこうとやっけていただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • できたら今後、すべて一つの器の中ですべてを勘案するのではなくて、2つぐらいを設定して、その中で見合った形の利用を図っていくことの方が、今後は皆様のお力や知恵をいただいて、老人のことも含めて考えていただけたらどうかと思う。今後もよろしくお願ひしたい。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> • 25 ページを見ていただくと、65 歳以上を高齢者という考え方をするなら、南部地区は 53.4%、東部地区は一番多くて 85.1%、北部地区は 81.6% でかなりばらつきがあるのが現状である。 • 目的別な運行を考えたらいかがかと私は捉えたわけだが、現在、北部ルート、東部ルートにつきましては、通勤・通学に使える時間帯が当初あったが、これについては減便させていただいた。その中で、福祉目的、高齢者等の方を特に主とした移動手段確保といった形のルートに変えさせていただいているのが一つの現状である。 • 南部ルートについては、25 ページの表にもあるように高校生が 20.6% 通学に使っていただいているので、朝便、夕便を残している。 • 一応、色分けはある程度できてきた。 • 前回、前々回でもお話しさせていただいたと思うが、デマンドバスの運行についても検討はさせていただいているが、なかなかそれも難しいので、どういふ方法がベストかは、結論は出ていない。ルート毎にはある程度、特色・特性が出ているのかと考えている。今後どうするかは、協議会等を通して検討していきたいと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • 今後の長い目を見た時の先のことも踏まえてということである。このあと連携計画の話も出てくる。連携計画だと 5 年ぐらい先なので、更にその先も考えていくと、という捉え方かと思う。今後、この協議会でいろんな議論をして、検討していければと思う。 • 他にいかがか。
青木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> • 29 ページの月別収入の推移の後ろに「広告収入を除く」とあるが、これは別段、若干何かがあるのか。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> • これは、運賃収入というものを比較させていただいているという考え方で、広告収入は除いている。
青木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> • 別に収入があるのか。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> • 29 ページの表の下から 3 つ目の「広告」のところで、25 年実績だと 6,426 円ある。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • よろしいか。 • 他にいかがか。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> • 私があまり発言してはいけなけれども、先ほどからの事務局の説明で、平成 22 年からスタートして 5 年目になるわけだが、その間いろいろと皆様方のご意見、そして地域の住民の皆様のご意見を踏まえながらやっけてきている。現状、それぞれのルート、北部ルート・東部ルート・南部ルートの実態を皆様方にもご理解をいただいたと思う。5 年という節目

	<p>が平成 26 年であり、今年も当初予算という状況の中で、1 億円の予算を計上した。貴重な税に対して、我々は最大の効果を求めていかなければならないというのが、私たちの立場でもあろうと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私からの提案として、次回の協議会において、皆様方に一度、弥富市の「コミュニティバス」に乗っていただきたいと思っている。会議の時間内に、極力設定をさせていただくが、弥富のコミュニティバスはどういうルートで、どういう運行をしているのか、どういうところにバス停があるのかということも含めて、協議会の委員の皆様には体験乗車をしていただいたらどうかと思う。 ・まだ答えを出すのは早いので、今後のあり方について、平成 26 年度の協議会の中でどういう方向にもっていくのか、先ほど加藤福寿会会長からは、もう一度しっかりとバスの目的を考えて、例えば福祉的な形に戻るといことも一つの視野かと思っている。しかし、まだまだ時間をかけて、例えばそれぞれの目的地に対してどういう形のルートが望ましいか、今のところぐるぐる回って目的地へ行くというのが実態なので、木曾岬のバスのように、とにかくダイレクトに目的地に結んで、ルートを作っていく形でないか、なかなか私は改善できないと思っている。そういった意味で、北部ルートが朝の時間帯をなくしたのは、弥富駅へ通勤あるいは、いろんな形で弥富駅へ行くのに、電車に間に合わせるためには、30~40 分かけて誰が乗るかということになる。ぐるぐる回るので、北部ルートに対して駅との直行をどう考えていくかということをしっかりと考えていかなければならない。 ・それぞれの委員の皆様それぞれにそれぞれのルートのところに乗っていただいて、現状はこういう形で走っているということを是非体験をしていただきたいと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の見解をお願いします。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の会議でバスに乗るのは、非常に時間的な制約が難しいかと思う。協議会の初年度かと思うが、委員の皆様方に無料のパスをお配りしたことがある。そういった形の中で、実際にお暇な時間を作っていただいて乗っていただくことができないかと考えている。ルートだと、どこまでか行って、こちらが迎えに行くという形はとれるかと思うが、まともに 1 周すると南部ルートだと約 2 時間、北部についても約 1 時間かかってしまうという現状がある。 ・この会議の中でという形をとるなら、日にちを改めて 1 日そういう日をつくるといった考え方が一つ。または、以前お配りしたように無料パスを委員の方々にお渡しして乗っていただくという、どちらかの方法が行えるのではないかと感じた。 ・委員の方々のご意見をいただく中で、次回にやるという話なら、非常に短い区間になるが、計画をさせていただくのは、やぶさかではないので、よろしくをお願いします。
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市長がおっしゃったように、一緒に皆さんに乗っていただくというお話

(福寿会)	をされたが、そうであれば私は乗って体験するが、無料の券を渡すのは、その券が活かされない人が多いと思う。都合のいい時に乗って下さいというのは、利用が弱いような気がするので、皆さんに体験していただくのであれば、ある程度時間をとっていただいて、組織の中で行動をとっていただいた方がいいような気がする。
小林委員 (愛知運輸支局)	・先ほど、市長さんからもご提案いただいた話だが、他の市町の会議のやり方で、本庁舎だけでなく、支所でもやられている。支所でわざわざ会議の場を設けて、本庁で集合して皆さんでバスに乗って行き、会議をするというやり方もある。そういったことも参考にされながら、皆さんと一緒に実態を知っていただくことは非常に大事なことだと思うので、やり方ひとつだと思う。
服部市長	・そういったご意見もあるので、諮っていただきたいというのが私の意見であり、事務局から簡単に答えを出していただくのも困る。4年間やってきたわけだが、別のところで会議を催すことも結構かと思うので、一度、事務局で検討していただきたい。
山崎議長	・体験するというのは非常に良いことだと思う。ここに集合して、十四山で会議をやるというやり方もある。
事務局 (伊藤)	・バスが 27 人しか乗れない事情もあり、それについても考えさせていただくことでよろしくお願ひしたい。
山崎議長	・無料パスの話もあったが、できれば本当はお金を払って乗った方が良い。私も運行開始した当初に 2 回ぐらいお金を払って乗ったが、時間を見て乗らないといけないと思っている。事務局で検討していただきたいと思う。
福田委員 (民政委員)	・ここへ集まって行くよりも、それぞれの家から自分のバス停に乗って便利さをみた方が、価値があるかどうかともわかるし、全員で行くと会議のメンバーだけになる。 ・私は普通に乗ってみたが、1 周 2 時間かかった。その時に、途中から乗ってくるおばさんたちといろいろお話しをしていると、「前は家の前で停まったのに、今度はこんなに遠くだから乗り難くてしょうがない」とか、地域の人と一緒に乗り合わせないとよくわからないと思う。自分の近所からバスに乗って、●●がどれぐらいあるか知るのも必要なことだと思う。
山崎議長	・いろいろな意見があって、地域の方々のご自宅近くから乗っていただいて、行政の方々も駅からバスでという、この日はバスで皆さん集合するという手もあるかなと思う。ご検討よろしくお願ひする。 ・他によろしいか。

3. 議題

(2) 弥富市地域公共交通総合連携計画について

山崎議長	・2 つ目の議題について、先ほど加藤委員からこの先のことを考えていくというご意見もあったが、「地域公共交通総合連携計画」ということで、5 年先のことを見据えた計画になるが、この計画案について事務局から
------	--

	説明をお願いする。
事務局 (横江)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議題 (2) 「弥富市地域公共交通総合連携計画について」資料を基に説明する。 ○資料説明 (01:00:52~01:16:45) ・ 62、63ページにこれまでの概要を整理し、課題として大きく5点あげている。 ・ 1点目は「将来を見据えた、公共交通による生活交通サービスの確保・維持」として、公共交通の必要に関する共通認識、車両のバリアフリー化、環境対応車両の導入、がポイントになると考える。 ・ 2点目は「ニーズに即した運行改善」として、地域特性や利用特性に応じた運行改善、車両サイズの見直し、乗り継ぎの改善、をポイントと考える。 ・ 3点目は「適切で継続的な情報提供による利用促進」として、分かりやすい情報提供や、継続的な利用促進策の展開と周知がポイントと考える。 ・ 4点目は「地域で守り育てる体制の展開検討」として、サポート体制の継続的展開、地域協働の取組み促進をポイントとして考える。 ・ 最後の5点目は、「次のステップに向けた新たな目標と計画」として、新たな地域公共交通総合連携計画の策定がポイントになる。 ・ 55ページには、「地域公共交通総合連携計画」の上位関連計画である弥富市総合計画基本構想の概要、56ページに基本計画の概要、57ページからは都市計画マスタープランの概要を整理している。60ページには平成22年度から24年度の3年間の計画期間とした弥富市地域公共交通総合連携計画の基本方針、61ページに目標を整理している。 ・ 64ページから第2期弥富市地域公共交通総合連携計画を記載している。まず、4-2 計画の内容として、この計画を策定し、位置づけられた事業について国の補助や特例措置を受けることが可能になる。さらに、生活交通ネットワーク計画と地域協働推進事業計画のそれぞれで支援を受ける内容が変わってくる。弥富市においても、今後、支援を頂くために、上位となる地域公共交通総合連携計画を定める。 ・ 65ページには基本方針と地域公共交通の連携の考え方を整理している。 ・ 「市民生活と地域を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持」をテーマとして、高齢者や地球温暖化など、将来にわたる暮らしの安心の確保を目標としている。 ・ 具体的には、使いやすく効率的で、持続可能な地域公共交通への発展のために地域特性や利用者特性に応じた継続的な改善を行うほか、継続的な情報提供、市民・行政・交通事業者等の協働・連携を掲げている。 ・ さらに、基本方針の実現に向けて、広域的な移動手段としての鉄道、使いやすい市内の移動手段としてのきんちゃんバス、それぞれの乗り継ぎ環境改善による利用促進や利便性の向上を図る。 ・ また、市、市民、交通事業者の役割を明確にし、参画と協働による取組みを行う。 ・ 66,67ページには、4-5 基本方針に基づく目標と取組みを記載している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・目標としては、「利用者数の維持」として最低限 1 便当たりの乗車人員の現状維持、継続的な改善と利用促進による増加を目指す。また、「高齢者の利用の増加」として、高齢者が使いやすい移動手段であれば、みんなが使いやすいという考えのもと、継続的な改善と利用促進により、高齢者の利用者割合の毎年の増加を目指す。 ・取組みとしては、 <ul style="list-style-type: none"> ◆地域特性や利用特性に応じた運行改善や車両更新時における適正な車両サイズへの見直しによる効率化 ◆75 歳以上への無料パスカードの配布や定期券、回数券、シルバーパスの販売により、料金負担の軽減による利用促進 ◆周辺自治体と連携した乗り換え環境の改善やサイクル&バスライド駐輪場の設置による乗り換え利便性の向上 ◆車両更新時におけるバリアフリーや環境に配慮した車両の導入、ノーマイカーデーの実施による人と環境にやさしい地域公共交通への改善 ◆分かりやすい時刻表、ポケット時刻表の作成、配布や乗り換えバス停への乗り換え時刻表掲示、市・周辺自治体 HP へのきんちゃんバスや周辺自治体が運行するバスの情報掲載 ◆認知度向上による利用促進 ◆地域で創り、支える仕組みづくりなどを位置づけている。 <p>以上で議題（2）第2期弥富市地域公共交通総合連携計画の説明を終える。</p>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・現状から問題・課題を整理していただいて、上位計画・関連計画があり、前回の 24 年度までの総合連携計画がある。新たな総合連携計画を立てていくということである。 ・これに関して、いろいろ皆さんの意見をいただいて、良い計画をつくりあげていただきたいが、いかがか。何かご意見、ご質問等はあるか。
小林委員 (愛知運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の開催案内の中に、計画の議題が挙がっているが、そちらが最終的な出来上がりのイメージなのか。 ・前段で、国の動きをご紹介させていただく。地域公共交通総合連携計画については、来週、閣議決定をして改正後は、この言葉は出てこなくなる。新しい法律に沿った形をイメージしていただきながら、そういった要素を取り込んでいただきたい。 ・具体的に何がどう変わるかは、基本的にはまちづくりとの連携を計画の中にしっかりと位置づけていただきたい。コンパクトシティ的な話を公共交通でしっかりと支えていくことと、もう一点は、面的に全体ネットワークを構築していくことである。面的については、弥富市全体をどういうふうに公共交通ネットワークを作っていくかである。そういった話を視野に入れながら、今後の計画に反映していただきたい。 ・高齢化が進む中でどういったことを作っていくかは、課題としてどう捉えていくかということもある。車の対応だけが課題として出ているが、移動環境をどう作っていくかをどう捉えるのか。 ・64 ページの計画内容について、4-2 で連携計画が国の補助を受けるとい

	<p>う書き方をされているが、国の補助金をもらうための計画ではないので、この辺りはもう少し整理していただきたい。地域の面的ネットワークをどう作っていくか、まちづくりの戦略としてどうしていくかという中で、国の制度を活用していただきたい。連携計画が、特例措置を受けてネットワークの計画を作って、補助金をもらうだけのものではないと思う。区分けしながら考えていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面的なネットワーク全体を作っていく中で、弥富市は鉄道やきんちゃんバスもある。三重交通のバス路線もある。そういう部分を位置付けていただくことが必要になってくる。従来は、試行運行的にきんちゃんバスをどうしていくかを中心に取り組んできた。それは結構だが、次の計画を考えた時に、面的なネットワークを考えてもらいたい。 ・基本方針にある交通弱者の移動を支えるためには、高齢化が進んでいく中での対応だと思うが、分かりやすい情報提供を継続的に行うとなっている。移動を支えていくことを考えた時に、情報提供はもちろん必要だが、移動を支えていくための仕組みはどうするのかを考えていただくことがあってもいいのではないかと思う。目標と取り組み事業内容についても整合性を取らないといけないのではないか。利用者数の現状維持はいいが、その中で高齢者の利用の増加をさせていくという目標は、利用者の割合として高齢者を増やしていくと読み取れるが、その目標で進んでいくのかどうなのかということもご確認いただきたい。もしそうならば、それに対して何をするのかというのが取り組みの個別事業になっていかなければいけないので、全体の利用者数をそのまま維持していきながら高齢者の割合を増やすために何をすればよいか、その点も含めて整理していただきたい。 ・面的なネットワークをどう作るかは、高齢者の方々に対する移動手段を確保していくという話が出てくるのなら、現行のタクシー助成の施策についても上手く組み合わせて活用していただきながら、全体的に足の確保ができるようなものをトータルで作っていただけるようなご検討もお願いしたい。 ・国の制度が変わるのは申し訳ないが、今まさにこれからそういう形で進むということだけをお伝えしたい。出来てから新しいものに変えるのはもちろんいいと思うし、まだ法律が出来ていないので、それを見据えてということではないが、変わってくるということを頭に入れておいていただきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろ大事なことをおっしゃっていただいたが、事務局いかがか。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・国の制度が変わるということは多少お伺いしていた。今週のバスの協議会で、ある程度お話しいただいたことはあるが、正式なものについては今月 28 日に説明いただけるかと思っている。議題をつくる段階では、はっきりしていなかったもので、反映していない形で出している。そのようなことも含めながら今後検討していく。現段階でのご意見をいただきたいと思うのでよろしく願います。

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にいかがか。 ・運輸支局さんがおっしゃられたことも踏まえて、あるいは自由に、今、事務局が考えているような話からご意見いただければと思う。 ・スケジュールの話があったが、今日ここで意見をいただいて、次回どうするのか、いつ決めていくのか、確認しておきたい。
事務局 (伊藤)	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の段階で、ある程度固まった案を出させていただいて、パブリックコメントの関係が4月ぐらいで行いたいと思っているので、それ以後の来年度の最初の会議の時には、固まったものをお示しできるのではないかと考えているので、よろしく願います。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・年度内、次はある程度固まった案が出てきて、4月に入ってからパブリックコメントで市民の方々のご意見をいただいた上で、ご承認いただくような流れである。 ・他にいかがか。 ・新しい制度の中でまちづくりの位置づけはどうか。交通まちづくりという言葉もあるが、交通のシステムを考えながら、それは交通だけで人の移動を考えるのではなく、まちづくりも一緒に考えていかなければいけないという思想である。計画の中で変えていこうという話があるので、面的にネットワークをしっかりと考えていかなければならない。そんなところで何かご意見はあるか。 ・事務局からご提示いただいているのは、利用者数を維持しつつ、より多くの高齢者の方々に使っていただくという目標がある。この目標をよしとするならば、そのために何をしていたらよいかのアイデアなど、ご自由に何か思いつくものがあったらご意見いただきたいが、いかがか。
服部市長	<ul style="list-style-type: none"> ・弥富市は、地形的に東西南北を距離で表すと、東西は三重県との県境、木曽川である。東は日光川や善太川は海部津島あるいは弥富との●になる。だいたいその幅は7~8kmである。私たちの町は、南北に非常に長い町であり、駅周辺の地域から西部臨海工業地帯まで約15~16kmという2対1ぐらいの細長いところである。 ・面的な形で申し上げるなら、市街化区域という状況が弥富駅を中心として大きなブロックとしてある。西部臨海工業地帯までいく中部というのは、農業振興地域で非常に水田や田畑という状況にある。 ・南部においても、基本的には農業振興地域で、西部臨海工業地帯がある。これを有機的な形の中で、連携とどう結びつけていくかが非常に重要であると思っている。農業振興地域が真ん中に位置しているところが、地域交通の中では、私はある意味、統治的に良くないと考えている。そういった中で、面的な形でどう連携をとるかということは、しっかりと考えていかなければいけないとも思っている。 ・木曽岬の公共交通いわゆるコミュニティバスを見させていただくと、駅への直結が非常に功を奏してみえるのではないかと考えている。一度、このような形のものも、一つの面的な連携の中で、皆さんの足というこ

	<p>とを考えると、どうしてもぐるぐる回らないといけない、バス停の数も増やさないといけない。本当にお年寄りも含めて、その目的はどこにあるのか、病院にあるのか、駅にあるのかということもしっかりと位置付けていくと、もう少しはっきりと路線というものが見えてくるのではないかと思っている。平成 26 年の大きな課題と思っているので、忌憚のないご意見をいただければと思う。</p>
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • いかがか。
青木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> • 後ろに書いてあることは、とてもいいことだと思う。単純に私たちが考えて、難しいことはよくわからない。新聞を切り抜いてきたが、広島で「お太助ワゴン」があるが、10～12、13 人ずつが予約して、エリア内は 300 円、エリアより外へ行くと 500 円でみんなをひろって行くところある。弥富市で言えば、病院や買い物に行くのに、今の運行をそのままやりながら、そういうルートで小さなワゴン車を走らせてみて、利用を促進する。当然ながら高齢者が増えてくるので、今、回っているバスでも乗るのは高齢者が増えてくると思う。それをしつつ、少し工夫をしたらいいと思う。駅に行く本数を 4 ルートとか 3 ルート、1 日に 1 本でもいいかと思ったりもする。単純に思うだけで、皆さんに考えてもらったらいいかと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • 前半にいただいた意見の中にもあったと思うが、路線をこころろ変えるわけではないが、きちんと路線のキャラクターを位置付けて、階層化する。道路は段階構成の考え方があって、高速道路や幹線道路、市街地の道路という使い方がそれぞれ違う。バスの仕組みも、路線の考え方があって、基幹路線やフィーダー路線がある。 • 弥富の 3 路線は、フラットな関係にある。全部、並列の関係にあるけれども、自然にいつの間にか、南部ルートは基幹的な位置づけになってきている。他のルートは朝便はやめてしまって、完全に高齢者のための路線になっている状況である。計画の中で、一度きちんと位置付けて、運賃のあり方も一律ではなく、地域から幹線や駅に運ぶようなものは、ある程度デマンド的な運行もしつつ、かつ運賃も 200 円や高齢者は無料ではなく、タクシーを考えれば 300 円～500 円ぐらい払ってもいいのではないかと、計画の中で考えていった方がいいのかと思えた。 • いろんなやり方があるかと思うので、大変だが考えていかなければいけないと思う。 • 他いかがか。
鈴木委員 (女性の会)	<ul style="list-style-type: none"> • 路線の見直しのことでも出たので、意見を言わせていただく。路線の見直しは全く変えるのは無理だが、もう一度考えてみてはどうかと思う。 • 北部ルート、東部ルート、南部ルートの今のルートは、地域だけに重点を合わせたルートになっている。白鳥から十四山に行こうとすると、乗り換えの時間帯もみないといけないという、近いところなのに手間がかかるという、すごく不都合な点もあるので、もう少しスムーズに、利用者の方を増やすにも、手間のかからないルートを考えていただけたらいい

	<p>いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者はどんどん増えていくので、高齢者の利用は上がると思う。その時に、高齢者が乗り換え時間まで調べてまで利用するかというと、私はおそろくしないと思う。今の状態は、自分が利用しようと思った時に使えないと思ったのが印象にあるので、利用者がそういうことを思ったらおそろく使わないだろうと思う。
秋元委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のこの会議で感じるものがあって、きんちゃんバスの運行は高齢者の利用が多い。高齢者に重きを置いたシフトづくりというような感じを受けるが、公共事業において、先ほど市長が言われたように、駅との直結便とか大きく分けると2つ、今後組み立てていただいたらどうなのかという思いがある。 ・高齢の方の足となることも大事だし、通勤・通学とか、これでない方の利用の需要がもっとあると思う。他の都市とかよくわからないが、名古屋であれば名古屋城や水族館など地域のものがある。弥富には海南こども国ぐらいである。地域のイベント企画やきんちゃん号を活性化・話題にすれば外部からの観光ルート、周知や認知という部分では考えられてもいいのかと思った。高齢の方と高齢でない方のそれを踏まえた路線や便を考えられたらどうかという思いがある。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にいかがか。 ・いろいろ意見があり、私も言いたいことを言ってしまい、座長失格である。5年やってきたということで、今までの連携計画をもう一回ならだとやり直して、今の形を引きずっていくのではなくて、きちんと計画を見直した方がいいのではないかと思ったので、事務局でご検討いただきたいと思う。

3. 議題

(3) その他

山崎議長	・議題(3)その他について、事務局から何かあるか。
事務局 (横江)	・特にない。
山崎議長	・ここまで含めて、何か言い残したことはあるか。
石川委員 (名古屋タクシー協会)	・この事業は、消費税は関係あるか。バスの運行に関して。
事務局 (伊藤)	・金額は変更しないで、消費税分は今回については上乗せしない運賃体系にさせていただきたいと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・よろしいか。 ・議題はこれですべてである。 ・事務局から連絡事項はあるか。
事務局 (横江)	・次回の第4回協議会は、3月19日(水)午後2時から予定しているので、よろしく願います。
事務局 (伊藤)	・先ほどご提案があった会場の変更の件は、検討させていただいて、次回は多分このままの場所になるかと思うが、もし調整がついたら場所の変

	更もあり得ることをご理解願いたい。その節には、ご案内させていただく。
--	------------------------------------

4. 閉会

山崎議長	<ul style="list-style-type: none">・ 以上で、第3回弥富市地域公共交通活性化協議会を閉会する。・ 今後ともご協力をお願いします。
	以上